

あなたの街

2006年11月

創刊号

■三田4・5丁目 ■高輪 ■白金 ■白金台 ■



東海大学短期大学(高輪校舎)2年山口清緒さんの作品です。

“あなたの街” 創刊にあたって

港区が、この四月より区役所、支所のあり方を大幅に改革しました。

「より便利に」「より身近に」「より信頼される」を実現するために、高輪地区総合支所が生まれました。

そして、住民の方々の絆をより深めるために、コミュニケーション手段のひとつとして“あなたの街”が創刊される事になりました。

今、私達が住んでいるこの“街”を、愛する“フルサト”とお想いになっていらっしゃる方が大勢だと思われまます。その“フルサト”を、なお良く理解し、より愛していこうというのが、“あなたの街”の趣旨です。

このコミュニティーパーは、この街を愛する人々によって制作されました。

多くの人々の共感を得られたらと願っています。

第一号は、高輪地区総合支所の呼びかけでボランティアが集り、暗中模索のなかでやっと完成しました。

“あなたの街”が、高輪地区総合支所を中心に、住民同士が大きな輪になる一つのメディアに育っていけばと思っています。

読んで、楽しく、便利な記事を沢山載せたいと思っています。色々とニュースがあつたら教えてください。ボランティアとして参加ご希望の方がいらっしゃったら、是非、メンバーに加わってください。

愛され、読まれる

“あなたの街”を作り育てていきたいと願っています。



健康の源 豆腐！ 川越屋豆腐店

白金五丁目、六丁目の間を恵比寿に向かうバス通り。最近、古い家屋の内装を変え、お洒落に様変わりしたお店が数多く出てきました。

そんな変わりゆく町並みのなかで、昔のままのたたずまい。「川越屋豆腐店」と書かれた旗が目印のお豆腐屋さんがあります。

明治四十年、先代は十六歳でこの道に入りました。最初、恵比寿のお姉さんの所で修行し、その後ここ白金六丁目で現在のお店を始めたそうです。

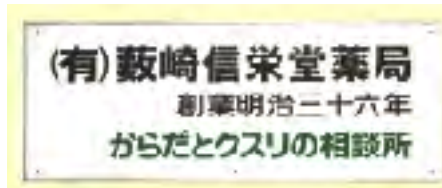
朝三時に起床。お豆腐は一日に三回作るのだそうです。

かつては東京に六千軒以上の豆腐店がありました。しかし、現在では千軒あまり。しかも一年に十軒近くが廃業していくそうです。白金、高輪、

朝三時に起床。お豆腐は一日に三回作るのだそうです。昔は石臼を使っていたので、八升の豆をひくのに四十分もかかり、人を頼んでいました。でも、今はモーター使用の機械にかわったので、作業は三、四分で終わるとのことです。

お豆腐とあげは途中までは同じ作り方だと思込んでいましたが、これが素人の浅はかさ。出来上がった豆腐を薄く切つて揚げればあげになる、というのは大間違いでした。そもそも豆を煮る工程から違うのだそうです。

二代目のご主人は根本一郎さん。昭和十八年生まれ、六十三歳。元氣はつらつとされています。「豆乳で育ちました」というお話にその秘密があるのかもしれない。試飲させて頂いた豆乳は実に甘くおいしい物で、これまでの豆乳のイメージとはまったく別のものでした。



健康のお手伝い 100年 ヤブザキ信栄堂薬局

三田の地域にも、もう三軒のお店しか残っていないそうです。とても残念な気がしました。毎朝七時には地元小学校、幼稚園、施設など、より安全な食品を求めている所に配達しているそうです。開店は、さらに二時間前の午前五時とのこと。健康のために朝の散歩でも始めようかと思っている皆さん。その途中でちよつと立ち寄つてみてはいかがですか。

白金6・4・4
TEL 3 4 4 4・4 2 5 9

明治三十六年、白金の地に開業して以来、三代二〇三年続いているお店があります。地元では「ヤブザキさん」と呼ばれ親しまれているヤブザキ信栄堂薬局です。ご当主の藪崎清重さんは、薬剤師、鍼灸師二つの仕事をこなし、支える陽子夫人は、

薬剤師と同時にヤブザキ薬局指定居宅介護支援事業所のケアマネージャーとして、地元の人々の福祉・介護に関する相談役をなされています。



白金1・28・18
TEL 3 4 4 1・4 4 3 8

さらに、四代目のご長男は薬剤師、ご次男は鍼灸師とのこと。一家揃って薬剤、鍼灸、介護といった健康、福祉に関わる仕事に従事されており、地域の人々の様々な相談に、親身になって応じています。また、ご夫妻ともに白金小学校、高松中学校の学校薬剤師をされており、水や空気など環境衛生に関わる検査にも携わっているとのこと。その関係か、昨今世間で騒がれている、中学生をはじめとする若年層の喫煙・ドラッグ問題などについても深い関心をお持ちです。

「昔は薬だけで商売になっていきましたが、今はなかなかさうも行きませんね」とご主人は笑いながら話されていました。自家製剤の「風邪薬」、「胃薬」、「咳止め」、なども大変評判がよいとのこと。地域としては、なくてはならない住民の味方、心強いお店の一つといえるでしょう。

● 三田に寺院が多いのは？ ●

徳川家康は江戸に入府するとすぐさま町づくりに着手します。天正十八年（1590）年のことです。当時の身分制度に従い城下を武家地、寺社地、町人地に分けたのです。八丁堀の地は、はじめは寺町でした。時代劇の影響で与力や同心の名詞のような町と思われがちですが、これはその後の話です。町名は、堀割の名称に由来し、寛永年間（1624〜1643）に造られた堀をさし、長さが八町（約872m）であることからその名がつけられました。しかし大変な低湿地帯であったようで、多少の整地をして七十数箇所のお寺に土地を与えたといわれています。住職たちは、それぞれ埋め立てに励んだようです。各寺での埋め立てが完成するころに、結果的に次に述べる理由から、再度寺を移動させて、その土地を幕府が利用することとなりました。と言うのもそれまで各大名が自主的におこなっていた参勤交代を武家諸法度を改正し

て、寛永十二年（1635）年に義務づけたのです。ただし、全ての大名が参勤交代を行うようになるのは寛永十九年（1642）年といわれています。参勤とは一定期間主君（この場合は将軍）のもとに出仕することで、交代は暇を与えられて領地で政務を執るために帰郷を意味します。幕府は大名の妻子を江戸詰めとし、その与える屋敷の量的拡大によって、八丁堀周辺の寺院を当時郊外にあった現在の港区三田の地に集団移転させたのです。このようにして三田に寺町が作られました。更に、南の高輪や西の白金方面まで寺町が続きます。この辺りに寺院が多いのは、明暦三年（1657）年の大火によって、都市計画を変更することになった結果です。類焼を防ぐための火除け地として十分な広さの空き地や庭園が設けられました。また大きな建物や敷地を持つ寺院は、何時でも陣屋になるように郊外に分散配置することになりました。

宮家の方々もごひいきの大福を 松島屋

高松宮様がこの店のお団子や大福をごひいきになさっていたという話でした。現在のご主人、文屋弘さんのお祖父さんが出身地にちなんで現在の場所に開店したのが大正七年。



ご近所は緑深い高松宮邸ですが、ここは以前、東宮御所で、敷地も高松中学からピ

ーコックの辺りまであったとか。戦後、当時お住まいだった高松宮様は、地域の人々の復興の助けにと敷地の一部を払い下げられただけでなく、弘さん達が子供の頃には敷地内で自転車を乗り回したり昆虫

を取ったりして遊ばせてもらったことなど、お優しい心を感じつつ育ったといいます。また、宮様のご結婚のときは、お振る舞いの赤飯の注文を受け、「ため」という専用の漆塗りの容器で納めたそうで、今も店の棚に大小いくつもの「ため」が並べられていま

す。

松島屋は代々のごひいきの方が多く、「恵まれています」と弘さんは本当に嬉しそうな表情を浮かべますが、

運に恵まれただけではないことは、夕方には売切れてしまう大福やお団子を二口味わえば明らかです。

「初代と同じ味をキッチリ守って、ほっとする味、ほっとする店をいつまでも続けたい。

知ってましたか
おいしいお店



女性が喜ぶ小町とは 「白金」のお酒

「白金」の名を冠したお酒を販売している地元の酒屋さんがあることを、皆さんはご存知ですか。

その一つは、白金五丁目の星野屋酒店さんです。こちらで

昔ながらの作り方にこだわることは、期待して来てくれるお客さんを裏切らないだけでなく、若い人たちには新鮮に感じてもらえるはず・・・と

信じて、これからも、一所懸命に変わらぬ味を作り続けていきたい」と笑顔に自信をにじませる頼もしい三代目です。

高輪 1-5-25
TEL 3441-0539

は、「白金三光町」と「白銀」(プラチナ箔入り)の二種を販売しています。どちらも吟醸酒です。

ネーミングはまさに町名そのものなのです。古き良き時代の町名は、昭和四十四年に行われた町名変更の際になくなりしました。「白金三光町」は「白金二丁目」から「白金六丁目」までの六地区に分割されました。「三光町」の「三光」はいまでは、小学校や一部の地場企業の名称に残るばかりです。ですから、昔を知る人にとっては、このお酒は、その名前だけでもうれしいお酒なのです。

もう一つは、同じく白金五丁目の田中屋酒店さんです。こちらでは、「白金五人衆」と「白金小町」を販売されています。

「白金五人衆」は、焼酎です。ネーミングの由来は、「白」と「五」。歌舞伎のお好きな方ならすぐに思い起こされるでしょう。「白

波五人男」です。それに加えて「白波」といえば焼酎の代名詞。さら

に加えて、



所在地の五丁目もかけてあるのです。この辺りが、遊び好きの江戸っ子気質を彷彿させるネーミングといえそうです。

一方の「白金小町」は、日本酒で、もちろん「小町」は美女の代名詞。さわやかな飲み口に、美しい女性の後ろ姿を彷彿させるでしょう。

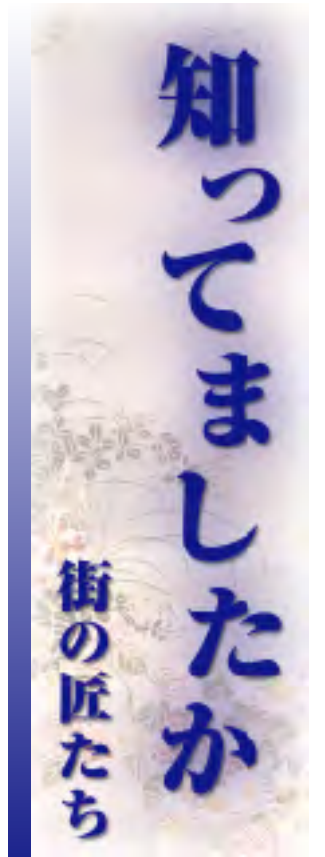
星野屋酒店
白金 5・14・8
TEL 3446・1945
田中屋酒店
白金 5・6・9
TEL 3441・8931

編集だより

地域を愛する情熱だけは人一倍あるが、新聞の編集はほとんど経験がないというメンバーが集まったのが五月。企画段階で見がぶつかり、迷走しながら紙面構成の方針が決まったのが八月。不慣れな取材に苦勞し、がむしゃらに原稿を書いたら四ページでは、おさまらない文章が集まってしまい、八ページに決めたのが九月。やっと完成して味わう達成感。

終わってみれば、見知らぬ人が集まった三つのグループがお互い助け合い、いつのまにか、冗談も言える一つのグループに。これもボランティアの楽しさ。温かく、取材にご協力いただいた地域の方々に感謝。感謝。

- 次号もがんばるぞ。
- 阿部義高 安藤洋一
 - 市川ひふみ 登丸寛子
 - 林茂子 藤田栄
 - 森田國弘
- (主に本号の編集に参加したメンバー)



より良いものを求めて

長谷川弓具店

昭和二年から魚籃坂で店を営む「長谷川弓具店」は、現在港区で唯一の和弓専門店です。

この店の三代目ご主人、長谷川英一さんは、弓道の矢を作る矢師でもあります。

「ある程度、仕事の手順を覚えた後は『自分はこのやり方で』と思って三十三年間やってきました。ようやく、この仕事の全体が見えてきたところですよ」と語



る長谷川さん。仕事への深い情熱と探究心から、古い弓矢の収集も行っています。

「古き銘品は現在の科学的視点から見ても高い性能を

持っています。今のハイテクを駆使してやっ

と分かるよ。うなことが江戸時代以

前、すでに完成されていたことを知っ

たときは本当に驚きました。永いこと我々人間の手だけで維持されてきた伝統的な



技術を、自分も守り、伝えていきたいと思っています。」

そんな長谷川さんに、矢作りで最も大切なことはと伺ったところ「平常心」という答えが返ってきました。

「今は矢を持った瞬間に集中力が上がり、心が静まっています。そうなるようにするのはではなく、この、ご

く自然に平常心になっ

ているプロセスが大切なんです」

これは誰にでも真似できることで、は無いのかも知れません。長年、コンスタントに矢を作り続けることによつて身に付けた職人の成せる技なのでしよう。

「矢を作るときは、匂い、音など、自分の五感に感じるものが全ての判断基準です。二日酔いや風邪で体調を崩してもいい矢は作れません」



健康を維持することも仕事のひとつと考えているのです。

「弓道はいくら射手の腕がよくても、矢が正しく飛ばなくては的中しません。

また逆も然りで、いくら良い道具を使用しても、正しく使つて、その性能を最大

限に活かさなければいけません。そのためにはなれないのです。」

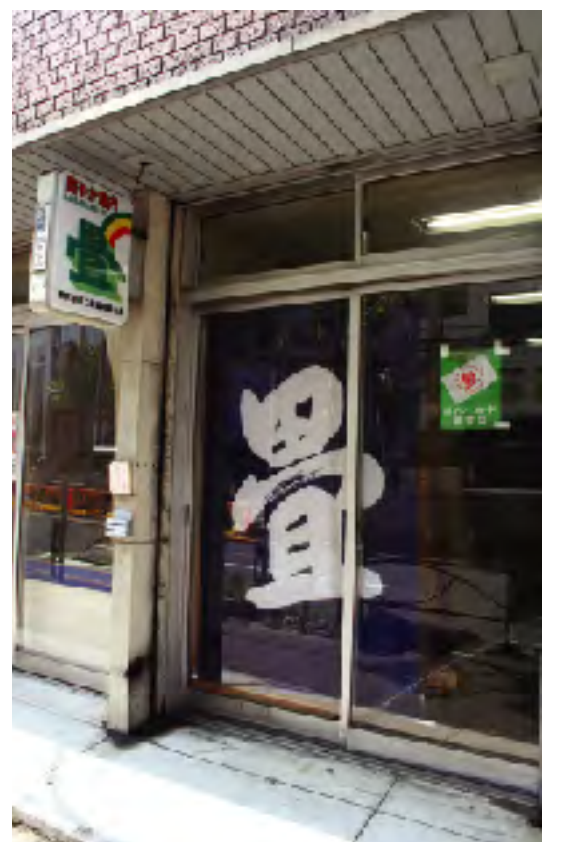
そのためご主人は、弓具や道具の販売をするときは、その使い方をできるだけ丁寧に説明するように心がけています。

また、習熟度の高いお客さんであればあるほど、細かな注文を出してきて、長谷川さんを悩ませるそうです。

「お客さんの難しい依頼に応えることで、こちらの技術も向上していきます。お客さんに勉強させてもらって、職人は成長していくのです」

日々静かに矢と向かいあう、長谷川さんの深い情熱を感じました。

三田 4・8・34
TEL 3451・7440



畳は新しいほうが…
清水長四郎商店

清水長四郎商店、創業以来二百八十年続く地元有数の伝統ある畳専門店です。ご主人は九代目の長之さん。

本畳は床裏が稲藁で作られています。最近ではス

タイルホーム、ボードなどのものもあり、使い分けされているとのこと。

手入れには風通しが一番、汚れは早めに拭くこと。電気掃除機を使うのが一番だそうです。

新しい畳の匂いをかいだとき、不思議に心癒された

経験は誰にでもあるでしょう。「いぐさは漢方薬の一つ」「脱臭剤の役目や有毒ガスを吸収する力があります」というご主人の言葉に納得しました。

最後に可愛らしい小さな畳を見せて頂きました。畳の良さを新しい形で生活に取り入れるアイデアだと感じました。

高輪 1・3・15
TEL 3441・3079

年末イベント

明治学院大学クリスマスツリー点灯式

冬の澄み渡った夜空に輝くクリスマスツリー。こんな風景を大学でも味わえるのをご存知ですか。

明治学院大学では、高さ約十一メートルのモミの木のツリーのもと、クリスマスをお祝いします。桜田通り沿いの美しい芝生の広場にツリーが出現し、

約二万七千球のイルミネーションが、白金に光をともします。

十二月には、このクリスマスツリーの点灯式が行われます。

点灯式は、教会の暦でイエスキリストの誕生を迎える準備期間（待降節IIアドベント）のはじめの頃に行われてきました。

昨年は約六百人もの人が訪れ、音楽と祈りのなかクリスマスが始まりをお祝いしました。港区の文化財でもある洋館

を背景に、ライティングされたツリーは、訪れる人にクリスマスの喜びと感動を与えます。明治学院で学ぶ大学生、高校生として卒業生や教職員とともにツリーを囲んでみませんか。一般の方も無料で自由にご参加いただけます。ぜひお越しください。

日時 十二月二十四日（金）
十六時三十分～十七時
雨天決行（予定）

場所 明治学院大学 白金キャンパス 記念館前広場（地下鉄南北線・三田線「白金高輪駅」徒歩七分）



泉岳寺



立行寺(りゅうぎょうじ)



立行寺(りゅうぎょうじ)

「忠臣蔵」と言う物語をご存知でしょうか。これは主君の仇を家臣が討つという内容の物語ですが、十八世紀初頭の史実が下地となっています。主人公の侍達は結局、切腹させられた訳ですが、「赤穂浪士」と呼ばれる兵庫県出身のこれら四十七人の侍の行為は忠義と讃えられて、祭礼として今日まで引き継がれています。祭礼は「義士祭」と呼ばれ、例年二回、春と冬に催されま

義士祭

TEL 5421・5218

内容 クリスマスキャロルをともしに歌い、聖書のことばに耳を傾けます。大学や高校の音楽団体の演奏なども披露される予定です。
※車や自転車での来校はできませんので、ご了承ください。
問い合わせ先：明治学院大学 宗教部

白金二丁目の智光山立行寺は、地元では大久保寺と呼ばれ親しまれています。これはこの寺に大久保彦左衛門の墓があることに由来します。彦左衛門は、家康、秀忠、家光三代に仕えた旗本で、將軍に対しても臆せず忠告する「天下の御意見番」として知られています。彼の愛顧を受けた

除夜の鐘

あなたも義士祭へ参加して、火事装束を纏った大石内蔵助の姿をまのあたりにしてはいかがでしょうか。

といわれる江戸っ子の魚屋、一心太助の墓も、彦左衛門の墓の傍らにあります。現在のご住職は鈴木正厳氏で、同氏がこの寺にいられた十五年前から、年越しの行事「除夜の鐘撞き」が宗教、宗派の隔てなく一般にも公開されています。鐘撞きは大晦日の午後十二時半から始まり、年を越して続きます。年々参加者は増え、鐘の音は煩悩の数を遙かに超えるとのこと。寺を訪れた人々には、菓子や飲み物が振舞われ、お守りも配られます。近年では、地元町会もイベントに協力し、次第に地域の年末の風物詩としても定着してきています。その他、立行寺では、毎月一回「写経の会」が催されています。参加費千円で、紙も筆も墨も硯もすべて用意されているとのことです。

白金2・2・6
TEL 3441・5708

健康の保持、安全な食材の確保、きちんとした食習慣の維持、家族のコミュニケーションの場など、「食」「食育」の重要性が再認識されてきました。

そこで、この欄では「食」にかかわる地域の情報を集めて見ました。



センターの外観

ベ 物 探 検 隊

開館時間：am 10 時～ pm 5 時
 休 館 日：日曜日・祭日
 電 話：03 (5488) 7319
 所 在 地：港区高輪 3-13-65

「食とくらしの小さな博物館」は、味の素が誕生してから、百年の食と生活、くらしの変化を展示しています。展示は大きく、「食とくらしの百年」と「食としたのもとスクウェア」の二つに分けられています。

「食とくらしの百年」の展示では、時代の推移とともに変化する食卓風景の展示が面白く感じました。昭和初期のちやぶ台の登場で食事での家族のだんらんが始まったといえます。さらに、ダイニングキッチンの登場で主婦が家族の主役になつていき、リビングキッチンでは、ホームパーティーにまでできるように、生活と食の変化していく様

子がわかります。「あしたのもとスクウェア」では、味の素グループの商品のラインナップなどが紹介されています。

見学した感想は、食の情報が詰まった素晴らしい施設ですが、やや学術的、説明的な感がありました。

もっと実際に、食について、体験できるような空間やイベントがあれば、地域の人々にとつてより親しみのもてる施設になるのではないかと思います。例えば、様々な郷土料理が楽しめるレストランとか、屋外でのバーベキュー大会、料理の楽しさを教える料理教室等があれば、何度でも訪れたいのではないのでしょうか。



ちやぶ台と夕食

港区では「元気まる食 MINATO」と銘打って、健康づくりを応援している飲食店さんを紹介しています。紹介の条件は、野菜を食べたい時や煙草の煙が気になる人の喜びそうな内容で、次の3点がチェックされています。

- ① 港区推奨健康メニュー
野菜や塩分、脂肪などに気を遣っているか。
- ② 健康サービス
カロリー表示があったり分量サイズが選べたりするか。
- ③ 健康空間
禁煙や分煙に配慮しているか。

ちなみに「野菜たっぷり」をウリにしているメニューには、野菜が120グラム以上使われているそうです。

また、どのお店でも半量サイズが選べる訳ではありませんが、ドレッシングの別添えをしてくれる所もある様です。

ドアなどに貼られた名刺サイズの、この紺色のステッカーが目印です。区内で約百軒、白金・高輪界隈で15軒あります。登録している具体的なお店の名前と場所は、上のURLを使ってウェブサイトを覗いて下さい。

紹介しているお店の内、今回は白金二丁目のロワンのママさんにお話を聞く事ができました。

「当ロワンでは、手作りをモットウとしています。ランチの惣菜はもとより、ケーキも自家製です」との事。ちなみにママさん自身も栄養士の資格をお持ちだそうで、食への意識を強調しておられたのが印象的でした。ママさんは、「元気まる食MINATOのことを区民の皆さんにもっと知ってほしい」と語ってくれました。

<http://www.city.minato.tokyo.jp/kenko21/index.html>

食についての 情報の宝庫を訪ねる

二年前に公開されたばかりで、あまり知られていませんが、「味の素グループ高輪研修センター」に行けば、食について、いろいろな情報が手に入るとい話を聞き、早速訪ねることにしました。

玄関は、ちょっと入りにくい感じですが、中はゆつたりした快適な施設です。ここには、味の素グループの研修施設の他、一般の人に公開されている味の素「食の文化ライブラリー」・「食とくらしの小さな博物館」があります。食の文化ライブラリーでは、食についての公開講座も開かれています。

このライブラリーは、食に関する様々な分野の本三万五千冊以上がそろっており、情報の宝庫にふさわしい素晴らしい図書館です。専門書もありますが、一般の人にも読みやすい本、例えば、郷土料理のレシピの本や各国の食文化の本、食につ



35,000冊の図書室

(味の素の食文化センター)
事務局長
宇賀神 正さん談



「食の文化ライブラリー」を、学習に見学幅広く使っていただきたい。とりわけ地域にお住まいの皆様には大いに利用していただきたいと思えます。企画展示「箸の食文化」では、箸使いの体験コーナーもありますので、親子でお越し下さい。



歌舞伎を見ながら食を楽しむ人を描いた江戸時代の錦絵 (味の素の食文化センター所蔵)



大正初期の月刊料理雑誌「料理の友」 (味の素の食文化センター所蔵)

タウンミーティング TAKANAWA 2006 (T.MT'06)

参加者募集中

高輪地区総合支所では、地域のみなさんと身近な地域情報を共有し、さらに魅力あるまちを一緒につくっていくため、高輪地区独自の事業の創出や地域情報紙・地域情報番組の制作など、皆さんの知識とアイデアを活かし、一緒に活動して下さるメンバーを募集中です。

対象者 高輪地区に在住、在勤、在学の人
活動内容 ①区政60周年記念事業、新規事業の創出・実施など

来年、3月開催予定のウォークラリーに向けての検討、重ね地図づくりなどを中心に活動しています。

②地域情報紙・地域情報番組制作など

地域内の祭りやイベント、団体活動、史跡、穴場情報など、地区のさまざまな情報を収集し、現在、コミュニティ情報紙を制作中です。

*会議の開催は平日夜間月2回程度です。

*交通費や日当は支給されません。全体会議は毎月第2木曜日の午後6時30分に開催しています。

(このほかに、各担当グループ別の活動が行われています。)

高輪地区総合支所
随時募集しています。

電話、FAXまたは郵送で、左記まで「参加希望」とお申し込みください。(保育を希望する場合は、お子さんの名前と年齢も記入。)

*①住所 ②氏名 ③電話番号 ④メールアドレス (メールでの連絡を希望する方) をお知らせください。

申し込みおよび問い合わせ先

高輪地区総合支所地区政策課

電話 5421-7123

FAX 5421-7626

高輪地区総合支所

〒108-8581 港区高輪 1-16-25

高輪地区総合支所からのお知らせ

「あっぷリング高輪フェスティバル」

高輪地区総合支所では、高輪地区にある保育園・児童館・福祉会館のみなさんとともに合同文化祭を開催します。日頃の活動内容の発表のほか、各施設を知ってもらい、高輪地区のみなさんとのつながりを深めるフェスティバルです。舞台、作品展示、ゲームコーナー中心のお店など、内容は盛りだくさんです。ぜひ「あっぷリング高輪フェスティバル」へお越しください。

「あっぷ」は高輪の「高」を、「リング」は高輪の「輪」を意味しています。

【実施日程】

平成19年2月16日(金) 作品展示
2月17日(土) 作品展示・舞台発表・出店
2月18日(日) 作品展示

【時間】

10時～17時(時間変更の可能性あり)

【実施場所】

高輪区民センター(展示ギャラリー・創作室・ホール等)

【内容】

作品展示、踊りや歌・劇などの舞台発表、ゲームコーナーなどのお店。また、会場内を回るスタンプラリーも企画中です。

【問い合わせ先】

高輪地区総合支所 地区活動推進課施設運営係
(電話 5421-7067) 各保育園・児童館・福祉会館

クラシックコンサートのタベ

明治学院大学と高輪地区総合支所との共同で、公開レッスンとクラシックコンサートを開催します。

申し込み 11月23日(木・祝)
開場 午後6時30分
開演 午後7時(約90分)
会場 高輪区民センター
出演 ●アンジェイ・ブルーベル(チェロ)ポーランドシヨパンアカデミー教授
●平澤 真希(ピアノ)ポーランド在住
●明治学院大学学生

プログラム
弦楽器へのレッスン
シヨパン：序曲と華麗なるポロネーズハ長調 作品3
サン＝サーンス：「白鳥」日本の名曲 他

対象 区内在住、在勤、在学者
定員 高輪地区50組・その他

区内50組、計200人(申し込み多数の場合は抽選) 往復はがきの往信面に住所・氏名(フリガナ)・電話番号(その他在勤者は、勤務先名・勤務先所在地、在勤者は学校名も)、返信面にご自分の郵便番号・住所・氏名を明記の上、11月10日(金・必着)までに、〒108-8581高輪地区総合支所地区政策課「クラシックコンサート」係へ。

◎未就学児の入場はできません。
◎保育を希望する人は、「保育希望」とお子さんの名前・年齢をはがきに記入してください。
◎当日は、招待はがきをお持ちください。(はがき1枚につき、2人まで入場可)

区政60周年記念事業のお知らせ

タウンミーティング T A K A N A W A 2006(通称TMT'06)は、高輪地区(総合支所地域)の在住・在勤・在学者のグループです。このグループは、港区政60周年を記念して、新しい事業・イベント・企画を練っています。来年の3月に高輪地区で、区民の方々に参加していただくウォーキング(歴史散歩のようなもの)をおこなうことが決まりました。

また、そのイベントとして今年の11月2・3日には、明治学院大学・白金祭で、昔のこの地域の写真や地図を展示する企画を予定しています。もうひとつ、来年の1月末または2月初旬に、区民センターなどを利用する企画を練っています。まずは、白金祭の展示会に、ぜひ足を運びください。

(この事業の窓口となる課は地区政策課TEL5421-17123です)

地域情報掲示板

明治学院大学白金法学会 無料総合法律相談会

主催：白金士業倶楽部 白金リーガルクリニック運営委員会

金銭トラブル、登記、土地境界、税務、労働関係、遺言、相続、離婚、国際結婚、在留資格(VISA)、著作権、特許、商標、セクハラ、ストーカー被害、その他のお悩みでも大小問わずお気軽にご相談ください。弁護士だけでなく、司法書士、弁理士、税理士、行政書士、社会保険労務士等、ご相談内容に合わせて当大学出身の専門の法律家が無料で相談を承ります。通常法律相談会と違い、色々な角度から相談をお受けすることができます。

日程：11月2日(木)、3日(金) ※大学祭中です
13:00～16:00 (受付 12:30～15:30)

場所：明治学院大学白金校舎
〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37
詳しい場所は当日学内の立て看板をご覧ください。

※ 事前予約はできませんので予めご了承ください。また、資料をお持ちの方は当日ご持参下さい。



あなたの疑問をお聞かせ下さい



私たちが解決するお手伝いをします!



地域で活動している「いるかクラブ」



いるかクラブは、高松中学校の開放プールで、月4回、身体・知的・精神障害者のプール介助を行っているボランティア団体です。

水泳を通じて障害者の運動不足解消を図り、リハビリによる機能の回復保持を目的として、11年目を迎えようとしています。高松中学校の開放プールは、地域の一般開放の方々と共に利用していますが、この頃は高松中学校の方々やプール利用者の方々にも、理解をいただいて「よく頑張っているネ。」「あつという間に泳げるようになったネ。」などと、温かい言葉をかけて頂いています。

毎年7月に東京都障害者水泳大会に参加し、今年も平泳ぎと背泳ぎで金メダル2個、ビート板と自由形で銀メダル2個、4名参加のフリーリレーで銅メダルを獲得しました。リレーは長年メダルに届かずにいましたが、今年は銅メダルを頂きました。

身体・知的・精神障害者の方々に水泳やウォーキング希望の方は、高松中学校の開放プールでの私達いるかクラブの活動を一度見学にいらして下さい。

